

日誌

日誌 06月23日 東邦大学 学籍番号(1021166) 氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	出席 37.0 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	漢方
		貧血
	10:00	服薬指導
		薬歴
	11:00	調剤
		調剤
	12:00	休憩
		休憩
	13:00	一包化
		一包化
	14:00	一包化
		在宅
	15:00	服薬指導
		疑義照会・服薬指導
16:00	日誌	
	日誌	
17:00		
場所	薬局(よもぎ薬局)、患者宅	
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(0)名、高血圧症(1)名、糖尿病(1)名、心疾患(1)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (1)名、免疫・アレルギー疾患 (1)名、感染症(0)名、その他(2)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(1)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (1)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(2)名	

日誌

日誌 06月23日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容

本日は服薬指導を4件実施した。

1件目は、セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg、リンデロン?VG軟膏0.12%が処方されていた患者さんであった。リンデロンは抗炎症作用に加え抗菌作用を持つ軟膏であり、外傷があるのではないかと考えた。そこから、セフカペンも感染予防で併用していると推察した。服薬指導では、実際の外傷の部位や程度を確認した。服薬指導の際に、怪我の部位と程度を確認した。

2件目の患者さんには、ビソプロロールフマル酸塩錠2.5mgが1回1.5錠で処方されていた。錠剤を半分にするのではなく、1.5錠の服用となると、錠剤を割る手間が生じるため、他の規格の組み合わせで代用できる方法について指導薬剤師の方から学んだ。1錠は2.5mgを使い、残りの0.5錠分を考えた。 $0.5錠 \times 2.5mg = 1.25mg$ となる。ビソプロロールは0.625mgの規格もあるので、 $1.25mg \div 0.625mg = 2$ より、0.625mgを2錠となる。今回は、2.5mgを1錠、0.625mgを2錠とすることで、1.5錠分に相当する用量とし、一包化もその内容で行った。また、この患者さんにはフロセミド錠とスピロラクトン錠が処方されており、2剤の利尿薬を併用していることから、心不全ではないかと考えた。続けて服薬指導も行った。この患者さんの奥様の服薬指導を3件目として行った。ジアゼパム錠が新規で処方されていたので、理由を確認した。

4件目では、患者さんから処方箋を受け取る際に、「イベニティを使うようになったのですが、先生がリセドロン酸Na錠17.5mgをやめるかもしれないと言っていた」との申し出があった。そのため、先生に疑義照会を行い、「イベニティの注射が始まると患者さんから伺いました。リセドロン酸について、先生の方から中止の可能性があるとお話されたとのことでしたが、継続でよろしいかご確認いただけますか」と確認した。その結果、リセドロン酸に加えて、アスパラ?CA錠200およびアルファカルシドール $1.0\mu g$ も中止となったため、削除後の処方内容に基づいて服薬指導を実施した。

日誌

日誌 06月23日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	○
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	○
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	○
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	○
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	○
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	○
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	○
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月23日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	<p>漢方における五行が、万物は「木・火・土・金・水」の5つの要素から成り立つことを教えていただいたので、講義資料を確認する。</p> <p>検査項目で、MCV、MCH、MCHC、Hbに触れる機会があった。これらの検査項目の結果から、どのような貧血に分類されるか講義資料より確認する。</p> <p>本日服薬指導で触れた、セフカペン、ロキソプロフェンNa錠、リンデロンVG軟膏、スピロノラクトン錠、ビソプロロール、リバーロキサパンOD錠、ジャディアンス、アローゼン顆粒、ツムラ 根湯エキス顆粒（医療用）、ジアゼパム、リセドロン酸、アスパラ-CA錠 について確認する。</p>
添付資料	
薬剤師のコメント	<p>この日は4件も服薬指導してたんですね。がんばりましたね。</p> <p>ちなみに、イベニティの患者さんは信頼関係のきちんと構築できている間柄であれば、おそらく病院の受付で解決できたお話だったのかもしれないですね。苦笑</p> <p>登録者：小川 智弘</p>
添付資料(薬剤師)	

日誌

日誌 06月24日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	出席 36.5 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	情報共有
		情報共有
	10:00	疑義照会
		疑義照会
	11:00	薬歴入力
		薬歴入力
	12:00	地域食堂
		休憩
	13:00	休憩
		一包化
	14:00	薬歴
		薬歴
	15:00	薬歴
		疑義照会の回答記入
16:00	日誌	
	日誌	
17:00		
場所	薬局(よもぎ薬局) 地域食堂	
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(1)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (1)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(1)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(0)名	

日誌

日誌 06月24日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容

ある患者さんに関して、クリニックでイルソグラジンマレイン酸塩錠4mgが処方されていたが、大学病院では同薬の2mgが処方されていた。減量となっていたため、疑義照会プロトコルの入力を行い、FAXで送付した。医師から2mgで問題ないとの回答が返ってきたため、その指示に従って、2mgでの一包化を実施した。

地域食堂での健康セミナーに参加した。高齢者を中心とした地域住民が多く集まっていた。私自身も短い時間ではあったが、発表の機会をいただいた。セミナーでは、カルボシステイン、酸化マグネシウム、デキストロメトルファン、クラリスロマイシンなど、いくつかの薬を持参し、それらが市販薬としても販売されているかどうかをクイズ形式で紹介した。参加者の反応が良かった。政府が進めている医療費削減の一環として、OTC類似薬を保険適用外とする方針についても話題に取り上げ、セルフメディケーションについて簡単な講演を行った。

昨日服薬指導を担当した患者さんに関する内容として、ジアゼパムの新規処方があった。高齢の患者さんであり、ベンゾジアゼピン系薬剤であるジアゼパムの服用によって、ふらつきなどにより転倒のリスクが高まる可能性がある。そのため、服薬指導に際には、転倒のリスクに加え、骨折のリスクについても懸念されることを説明し、骨密度を伺うこともできると教えていただいた。

昨日電話で疑義照会を行った処方箋に関して、記録を行った。記入項目としては、問い合わせた日時、問い合わせた私の指名、電話に対応した医師の名前、問い合わせ方法、問い合わせの内容およびその回答の内容を記録した。

血液検査で得られるカルシウム濃度は、アルブミン濃度の影響を受けることがあるため、アルブミン値を考慮して補正カルシウム濃度を計算する方法について学んだ。

日誌

日誌 06月24日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	○
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	○
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月24日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	骨粗しょう症治療薬について、骨形成を促進する作用と骨吸収を抑制する作用の違いが曖昧になっているため、講義資料をもとに復習する。 アシクロビル錠、トラセミド0D錠、バクタ配合錠、イペニティ皮下注105mgについて添付文書や患者向け医薬品ガイド(該当があれば)、今日の治療薬より、適応、用法用量、副作用、使用上の注意などについて確認する。
添付資料	
薬剤師のコメント	他職種連携、ここでは他のと言う意味の他職種としてあります。互いの職種がその職種の考えてることを理解するためには、疑義をかけることになるのですが、回答が『OK』だけでは何も伝わらないですね。 登録者：小川 智弘
添付資料(薬剤師)	

日誌

日誌 06月25日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	出席 36.9 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	心不全
		調剤
	10:00	服薬指導
		薬歴
	11:00	作用機序
		痛風
	12:00	休憩
		休憩
	13:00	議論
		議論
	14:00	在宅
		議論
	15:00	薬歴フィードバック
		服薬指導
16:00	日誌	
	日誌	
17:00		
場所	薬局(よもぎ薬局)、患者宅	
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(1)名、高血圧症(2)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(3)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(1)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(1)名	

日誌

日誌 06月25日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容

心不全の悪化に関して学んだ。心不全が悪化する原因としては、体内に水分が貯留することや頻脈などが挙げられる。今回の患者さんは甲状腺機能亢進症が判明して、それによって頻脈が引き起こされ、心不全の悪化につながったと考えられた。治療薬として、ヨウ化カリウム丸が挙げられる。

2件の服薬指導を担当した。1件目の患者さんは膀胱炎の診断を受け、レボフロキサシンが処方されていた。患者さんから「すぐに飲んでも大丈夫かしら」と質問を受けた。レボフロキサシンは食事の影響を受けにくい薬であることを踏まえ、「飲んでいただいて問題ありません」と指導薬剤師の方が回答していた。指導薬剤師の方から、この質問はよく受けるため、薬を服用する際に、食事の有無が効果に影響するか確認することを教えていただいた。さらに、今回の処方薬のうち製薬メーカーが変更されていたため、「メーカーは異なりますが、成分は変わりません」と説明した。

2件目の患者さんは、アムロジピンとプラバスタチンだった。前回、新規の薬が追加されていたため、服用後の体調変化について確認することができると教えていただいた。

在宅を実施した。患者さんはホスピスを検討している段階にあった。薬剤師の方が、患者さん本人の意志やその家族の考えを丁寧に確認していた。薬の知識だけでなく、介護に関する理解と対応力が薬剤師に求められることを肌で感じた。また、治療に対して過度な期待を抱く患者さんやご家族もあり、そうした認識を適切に修正することの難しさについて、指導薬剤師の話を通じて深く考えさせられた。事実をどこまで伝えるか、どのように伝えるか、正解がない臨床現場の現実直面した日だった。

一昨日に服薬指導を担当した患者さんの薬歴に着いて、フィードバックを受けた。ステロイドを服用中で免疫力が低下している患者さんが怪我をした事例であり、抗菌薬の処方がされていた。薬剤師の方から、服薬指導の際に、感染予防のために怪我の部位をよく洗うよう伝えることもできると教えていただいた。

日誌

日誌 06月25日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	○
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	○
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	○
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	○
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	○
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	○
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	○
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月25日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	添付文書で薬を確認する際に、用法用量や適応について確認しており、作用機序について確認していなかった。今日からはどのような作用機序か復習する。 服薬指導で触れた、レボフロキサシン、プラバスタチンについて、添付文書や患者向け医薬品ガイド(該当があれば)、今日の治療薬より、適応、用法用量、副作用、使用上の注意、作用機序などについて確認する。
添付資料	
薬剤師のコメント	医療従事者の役目って何でしょうね。 ある意味患者さんたちの選択の手伝いをするのがその本懐なのかもしれません。 たくさん考えてみてください。 登録者：小川 智弘
添付資料(薬剤師)	

日誌

日誌 06月26日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	出席 36.5 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	咳嗽
		薬歴フィードバック
	10:00	モニタリング
		服薬指導
	11:00	薬歴
		薬歴のフィードバック
	12:00	休憩
		休憩
	13:00	パーキンソン病
		パーキンソン病
	14:00	OTC検討
		OTC検討
	15:00	調剤
		調剤
	16:00	服薬指導
		日誌
17:00		
場所	薬局(よもぎ薬局)	
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(3)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(2)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(0)名	

日誌

日誌 06月26日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容

ネオステリングリーンうがい液0.2%について、口腔内の消毒や抜歯創の感染予防を目的として用いられることを確認した。

昨日服薬指導を担当した患者さんの薬歴のフィードバックを受けた。処方薬の中にはレボフロキサシンが含まれており、この薬は腎臓から排泄される抗菌薬であるため、腎機能を考慮した用量設定が必要である。昨日は、患者さんの血清クレアチニン値や体重が不明であったため、クレアチニンクリアランスを求めることができなかった。お薬手帳などから、腎排泄型の薬が処方されている際には、おおよそのクレアチニンクリアランスを推定する方法があることを学んだ。また、骨粗しょう症の患者さんの薬歴のフィードバックを受けた。エルデカルシトールが新規に処方されてから、昨日の服薬指導は2回目であり、副作用の有無を確認する必要があった。エルデカルシトールの副作用として高カルシウム血症を引き起こすことがある。高カルシウム血症の症状には、口渇や吐き気などが挙げられる。定常状態到達時間の目安として、半減期 $\times 5 \div 24$ で時間を求める計算し、副作用の時期を予想することができると学んだ。

パーキンソン病の4大症状は、振戦、筋強剛、無動、姿勢反射障害である。解熱鎮痛薬の発注の検討をした。

服薬指導を2件担当した。1件目の患者さんは、ご自身の通院の経緯について丁寧に説明していただいた。薬学的な知識の勉強になるお話をしていただいた。2件目の患者さんは、耳が不自由だったため、筆談での服薬指導を行った。貴重な経験となった。患者さんから耳が聞こえない人や聞こえにくい人が、周囲に配慮を求めるために使用する耳マークについて教えていただいた。

日誌

日誌 06月26日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	○
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	○
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	○
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	○
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月26日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	<p>薬物動態に関する計算がすぐに思い出せないので、講義資料や定期試験の問題を復習する。</p> <p>パーキンソン病に関しても、知識が曖昧であった。4大症状を挙げることができなかったため、講義資料を確認する。</p> <p>服薬指導で触れた、トリメブチン、センノシド、アリドネパッチ、リーゼ、プレガバリンについて、添付文書や患者向け医薬品ガイド(該当があれば)、今日の治療薬より、適応、用法用量、副作用、使用上の注意、作用機序などについて確認する。</p>
添付資料	
薬剤師のコメント	<p>大学で学んだことってとっても大事ですよ。</p> <p>私も社会人博士に通うようになってから学ぶことが直接患者さんに生きてくることがわかったので、ぜひ今のうちにたくさん復習しておいてください。</p> <p>登録者：小川 智弘</p>
添付資料(薬剤師)	

日誌

日誌 06月27日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	出席 36.9 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	溶連菌
		ADHD
	10:00	服薬指導
		薬歴
	11:00	コミュニケーション
		フィードバック
	12:00	休憩
		休憩
	13:00	薬歴
		服薬指導
	14:00	薬歴
		フィードバック
	15:00	実験
		情報共有
	16:00	日誌
		日誌
17:00		
場所	薬局(よもぎ薬局)	
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (2)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(1)名、その他(0)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (1)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(1)名	

日誌

日誌 06月27日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容

うつ病の患者さんの服薬指導を実施した。他の患者さんと比べて、感情が乏しく、コミュニケーションの取り方が難しく感じた。うつ病の患者さんに対して傷つけてはいけないとの思いから、服薬指導の際にあまり話をしない薬剤師も多くいるということを伺った。まずは返答しやすい質問から始め、少しでも話しやすい雰囲気を作ることが大切であると学んだ。また、今回の患者さんが手の震えが見られ、薬剤性パーキンソニズムの可能性あることを教えていただいた。薬剤性パーキンソニズムとは、向精神薬や抗うつ薬などの副作用により、パーキンソン病に類似した症状が現れる状態のことである。今回、オランザピンやミルタザピンを服用しており、これらの薬剤が原因となっていた。

痛風患者さんの服薬指導を実施した。患者さんは予定より来局が遅れており、本日薬は服用したかどうかを確認した。痛風発作は、尿酸値の変動により起こるため、継続的な服用が重要であると学んでいた。本日服用できたことに対しては「良かったです」と言い、これまでに服用していない日があった可能性があるため、「どのように飲んでいますか」と患者さんと一緒に確認できると良いと教えていただいた。

溶連菌に対する抗菌薬の治療期間として、ペニシリン系であれば10日間、セフェム系であれば7日間服用し続けることを学んだ。

認知症の母親と自身の家庭との両立について悩んでいるという患者さんのお話を共有した。両親の介護という、私自身にとっても決して他人事ではなく、いずれ直面する問題だと強く感じた。話し合いの場を持つことの重要性を学んだ。

塩化カリウム徐放錠600mgの一包化の可否について実験を実施した。ユニパックを用い、一方には乾燥剤を入れて密封し、もう一方には乾燥剤を入れず蓋を閉めない状態とし、エアコンのない部屋でそれぞれ放置して観察を継続している。

日誌

日誌 06月27日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	○
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	○
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	○
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	○
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	○
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	○
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月27日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	服薬指導をする際に、患者さんから聞き出す内容に関して、あともう1歩足りないと感じた。 オランザピンOD錠、ミルタザピン、タンドスピロン、添付文書や患者向け医薬品ガイド(該当があれば)、今日の治療薬より、適応、用法用量、副作用、使用上の注意、作用機序などについて確認する。
添付資料	
薬剤師のコメント	精神疾患の患者さんに対する服薬指導は言葉の使い方により一層の配慮が必要になるのかもしれませんが、しかしそれで躊躇してしまうのは何か違う気がします。書いてくれたように、もう1歩何か踏み込んでみるのが大事なのかもしれませんね。 登録者：小川 智弘
添付資料(薬剤師)	

日誌

日誌 06月28日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	欠席 36.9 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	
	10:00	
	11:00	
	12:00	
	13:00	
	14:00	
	15:00	
	16:00	
17:00		
場所		
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(0)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(0)名	

日誌

日誌 06月28日 東邦大学 学籍番号(1021166) 氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容	
----------	--

日誌

日誌 06月28日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月28日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	
添付資料	
薬剤師のコメント	
添付資料(薬剤師)	

日誌

日誌 06月29日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

出欠状況	欠席 36.9 良好	
欠席、遅刻・早退の理由		
1日のスケジュール	8:00	
	9:00	
	10:00	
	11:00	
	12:00	
	13:00	
	14:00	
	15:00	
	16:00	
17:00		
場所		
関わった疾患(処方解析・投薬計画などを実施した疾患等)とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(0)名	
服薬指導を実施した疾患とその人数	がん(0)名、高血圧症(0)名、糖尿病(0)名、心疾患(0)名、脳血管障害(0)名、精神神経疾患 (0)名、免疫・アレルギー疾患 (0)名、感染症(0)名、その他(0)名	

日誌

日誌 06月29日 東邦大学 学籍番号(1021166) 氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

具体的な実習内容	
----------	--

日誌

日誌 06月29日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習に関する能力	No	項目	選択
	薬学臨床の基礎		
	1	【②臨床における心構え】〔全実習を通して評価 A (1)、(2) 参照〕	
	処方せんに基づく調剤		
	2	【②処方せんと疑義照会】〔B 処方監査・医療安全〕	
	3	【③処方せんに基づく医薬品の調製】〔A 医薬品の調製〕	
	4	【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】〔C 服薬指導〕	
	5	【⑤医薬品の供給と管理】〔A 医薬品の調製〕	
	6	【⑥安全管理】〔B 処方監査・医療安全〕	
	薬物療法の実践		
	7	【①患者情報の把握】〔C 服薬指導〕	
	8	【②医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕〔C 服薬指導・D 薬物療法の実践〕	
	9	【③処方設計と薬物療法の(処方設計と提案)】〔D 薬物療法の実践〕	
	10	【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】〔D 薬物療法の実践〕	
実務実習記録による評価項目	No	項目	選択
	チーム医療への参画		
	1	【②地域におけるチーム医療】	
	地域の保健・医療・福祉への参画		
	2	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】	
	3	【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】	
	4	【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	
	5	【④災害時医療と薬剤師】	
独自評価	No	項目	選択

日誌

日誌 06月29日

東邦大学

学籍番号(1021166)

氏名(中崎 優奈)

この一日で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習にて達成できなかった点 (次回への反省・改善点)	
添付資料	
薬剤師のコメント	
添付資料(薬剤師)	